

平成 28 年 1 月 11 日（月・祝）開催 シンポジウム「新たな市民会館に期待すること」
 パネルディスカッション 議事録

- コーディネータ
- ・かいじま 貝島 ももよ 桃代氏（筑波大学芸術系准教授）
- パネリスト
- ・みかみ 三上 やすひこ 靖彦氏（水戸市中心市街地活性化協議会副会長）
 - ・たかの 高野 けんじ 健治氏（泉町二丁目商店街振興組合理事長）
 - ・すずき 鈴木 たかゆき 貴幸氏（水戸市民演劇学校卒業生）
 - ・てらかど 寺門 よしのり 義典氏（310+1 シネマプロジェクト代表）
 - ・ささぬま 笹沼 まさとし 正寿氏（水戸市サブリーダーズ会連絡会）
 - ・たてら 田寺 むく 棕氏（水戸市サブリーダーズ会連絡会）

（貝島）

今日は3連休の最終日だが、多くの方々にお集まりいただき、新市民会館に対する期待が高いものと改めて感じている。

今から約 10 年前に水戸芸術館で展覧会があり、筑波大学の私と、私の研究室の学生と、夫の塚本由晴とで水戸市に関する調査を行い、「水戸空間診断」という本を書いた。1960 年代の水戸は商店街を歩くと人と人との肩がぶつかるくらい人がたくさんいたが、だんだん建物が壊され、駐車場が増えている現状を見えるような形でまとめたものである。その本を見ると 10 年前の現状は分かると思う。そのような縁もあり、市から新市民会館整備の話の伺い、お手伝いをできればと思い、新たな市民会館等施設建築物設計候補者評価委員を引き受けた。

まちにはそのまちの事情がある。新市民会館の整備地は水戸の中心市街地の真ん中に位置し、かつ、空洞化が進んでいる地域でもある。そこで何が起きたらいいか、市の中で活躍している人々に率直な意見を聞きたく、水戸市で活躍しており、新市民会館でも活動を期待される方々にパネリストとして来ていただいた。

1. 自己紹介, 設計に関して知ってもらいたい水戸のまちの特徴		
三上	自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸市中心市街地活性化協議会副会長 （これまでの活動について） ①平成 15 年, NPO をつくり, 弘道館で雅楽の演奏会を行った。県重要文化財で有料のイベントが行われるのはこれが初めてだった。 ②平成 16 年に筑波大学と連携し, 「水戸空間診断」を作成。景観の研究会やシンポジウム等を実施。 ③平成 16 年から 19 年まで, セントラルビル創業支援プロジェクトと称し, 古いアパートをリノベーションし, アートなテイストの店づくりを行った。平成 17 年から 18 年まで, 南町 2 丁目で花壇づくりを行うこともした。 ④平成 18 年の第 30 回世界オセロ大会を水戸で開催しようと, 平成 16 年から 18 年まで水戸オセロプロジェクトを進めた。その前までは, オセロの発祥地が水戸であることはあまり知られていなかった。 ⑤「桜田門外の変」の映画化支援の会を進めた。幕末の水戸藩を描いた映画を通して, 水戸や茨城に誇りをもってもらおうという思いで進めたプロジェク

	<p>ト。映画は全国公開され、70～80万人の観客動員があった。オープンロケセットにも、3年間で30万人の来場があった。</p> <p>⑥水戸三高の外堀を城下町風にする歴史的景観の形成事業を県と市と一緒に進めている。</p> <p>私は水戸に生まれてよかったと思っている。水戸には歴史や文化があり、素晴らしいまちだと思っている。もっともっと多くの人が誇りを持てると思っている。</p> <p>まちなかには、弘道館、千波湖、水戸城跡、偕楽園、水戸芸術館等、歴史・文化・自然の観光資源が新市民会館から非常に近いところにある。かつて水戸には県北や県央からわざわざ人が来ていた。新市民会館は広域的な人にとっての芸術文化・スポーツ・自然などへのアプローチのハブになるといい。</p> <p>(今後の活動について)</p> <p>水戸市中心市街地活性化協議会は、プロモーション、デザイン、産業創生等の部会を設け、まちなかのプロモーション事業やまちなかの建物のリノベーション事業を進めようとしている。また、まちなか産業再生にも取り組もうとしている。</p> <p>中心市街地はどこでも衰退しているが、その原因は、かつては多くの店が製造業であり、人の手が加わり、そこならではのものを販売していたが、今は流通業になっており、店に買いに行かなくてもネットで買えるからだと思う。「水戸のまちならでは」であることや、人の手が加わっているものであることを産業再生の根に置き、プロモーションやリノベーションを通してできればいい。</p> <p>また、まちづくり会社を具体化しようと思っている。まちなか活性化の要の組織体として民間会社をつくらうと思っている。</p> <p>最後に、水戸の大通り魅力アップ推進を進めようと思っている。水戸の中心市街地の顔は大通りだが、それは40年くらい同じ姿であり、美しいとも楽しいとも思えない。そこをソフト・ハードからどのように改善するか、合わせて取り組みたい。</p> <p>新市民会館の設計に関して、今のまちなかを見てイメージすると思うが、これから水戸のまちがどう変わろうとしているか、今より1歩半先、良くなった後の水戸のまちをイメージして、新市民会館を考えることを希望する。</p>
高野	<ul style="list-style-type: none"> ・水戸京成百貨店の近くのおんこう鍋専門店の経営者 ・泉町二丁目商店街振興組合理事長 ・中心市街地活性化協議会の部会長 <p>昭和37年の生まれで、大学の4年間を除き、ずっと水戸にいる。平成11年度から商店会活動の手伝いをするようになった。</p> <p>昭和40年・50年代は、水戸のまちなかは土日になると肩がぶつかって歩けないくらいの盛況ぶりだった。また、喫茶店が多く、デートには必ず喫茶店を使っていた。それから、映画館が多く、デパートも人口にしては非常に多かつ</p>

		<p>た。この頃の水戸は商圈人口の範囲が広く、県北の太子町や福島県等から水戸の中心市街地に買い物に来ていた。</p> <p>大学修了後に水戸に戻ってきてから、徐々にまちに人が減っていき、水戸黄門まつりも今ではあまり人がいなくなった。これは何とかしなければならないと思っている。居住人口も、かつては水戸駅から大工町まで約 24,000 人だったが、今は 12,000 人。居住人口に比例して商売をやっている人が減っている。</p> <p>(現在の活動について)</p> <p>①「水戸バー・バル・パール」…東日本大震災があった 2011 年、中心市街地を歩く人が減り、この状況を何とかするために、飲み食いのイベントを行った。昨秋で 9 回目。1 回の参加者数は 3,000 人、参加店舗数は約 170 店舗で、日本一のバルイベントとなっている。</p> <p>②「水戸まちなかゼミ&まちカル」…水戸商工会議所と共催。水戸のまちなかは専門店が多いため、専門知識を生かしたカルチャースクールを年間 100 回行っている。</p> <p>③広報紙「IZM」…毎月作成。15,000 部を発行、7 年目。まちなかの情報に限らず、水戸の歴史や文化の紹介もしている。</p> <p>④「救民妙食」…黄門様の時代に、薬の入手や医者の治療を受けられない庶民を救済するため、身近にある草や野菜で病気の予防や治療をするような「救民妙薬」という取り組みがあった。これを食に置き換えた活動を始めた。</p> <p>⑤「VILLAGE310」…京成百貨店の開店 30 分前は、毎日奥様がたがロビーで井戸端会議をしている。そのような姿を見て、昨年 2 月に京成百貨店のそばにカフェや BOOK SOUP を併設した施設をつくった。</p>
鈴木	自己紹介	<p>・演劇団体「キミトジャグジー」に所属</p> <p>水戸芸術館にあった水戸市民演劇学校で 4 年間勉強し、そこで知り合ったメンバーでキミトジャグジーを立ち上げ、約 10 年活動している。</p> <p>水戸市には、茨城県立県民文化センターや旧市民会館等、500 人、1,000 人の劇場ばかりで、演劇が気軽に始められる環境ではないことを危惧していた。水戸で演劇を盛んに行っているのは高校生や大学生。演劇の活動をしていると、「水戸で演劇をやっていくのは難しいか?」、「水戸では演劇で食べていけないか?」という相談を受ける。そのような相談を受けた結果、水戸で演劇をできる場所をつくりたいと思い、活動してきた。</p> <p>東日本大震災後、活動する場所がないときに、「まちなか情報交流センター」の倉庫を劇場にしてはどうかと声をかけてもらい、自分たちで改修し、劇場にして活動をしている。</p>
寺門	自己紹介	<p>・「310+1 シネマプロジェクト」代表</p> <p>映画はかつて大衆文化として広がっていたもので、水戸にもたくさんの映画団体や映画館があり、サークル活動や上映活動等をしている人がいた。</p> <p>学生の頃から映画が好きで、水戸のまちで映画を通してさまざまな方と関わ</p>

		<p>ったり、活動したりしてきた。</p> <p>家は那珂市で、学生の頃は水戸に出ることへのわくわく感があった。学生の頃から行っている活動を社会人になって仕事をしつつも続けている。</p> <p>310+1シネマプロジェクトは、映画に関してさまざまな素敵な活動がある中、情報共有されていないことから、情報共有や面白い活動を一緒に行うことを目的に、東日本大震災以降に始めた活動。映画を通して地域を元気にしたいということで活動している。月1回ミーティングを行い、上映会等の活動や情報交換を行っている。活動の場がないので、自分たちで場を作って活動している。ホテルの一角やカフェなどでの上映活動、フィルムを使った子ども向けの上映活動、関係者を呼んでのトークイベント、水戸芸術館で水戸映画祭・水戸短編映像祭、野外上映を行っている。水戸短編映像祭にはコンペティション部門があり、若手映像作家の登竜門となっている。</p> <p>深作欣二監督、川又昂カメラマン、柳町光男監督、小泉堯史監督が水戸出身。映画や音楽、演劇などの大衆文化が水戸に集積されていた時代があり、監督などが生まれ、さまざまな文化が水戸に根付いていった。このような人たちがいることを知っておいてほしい。また、深作欣二監督の遺品が水戸に寄贈されているが、記念室が新市民会館にあるといいという個人的な思いもある。</p> <p>水戸のまちなかにはたくさんの映画館があったが、2008年までに9館が閉館し、現在、水戸駅南口の1館のみである。これはどこの地方都市も同じだと思うが、なぜなくなっていったのか、新市民会館と関連して考えていかなければならないと思っている。</p> <p>北関東では、群馬や栃木にはミニシアターがあり、地方都市では頑張っているが、水戸にはない。ニッチなものかもしれないが、多様な文化に触れることが欠落しているように感じている。</p>
	特徴	<p>我々の活動としては水戸芸術館が鍵となっている。</p> <p>千波湖や那珂川等、水に囲まれているまちであること、東京から100キロメートル、県の県北地域の入り口であること、大きく言うと東北地方の入り口であるともとらえていいのではと思う。</p>
笹沼	自己紹介	<p>・「水戸市サブリーダーズ会連絡会」に所属</p> <p>水戸市主催事業の補助や子ども会行事の手伝い等を行っている。</p>
	特徴	<p>一番特徴的なものは、水戸芸術館のタワーだと思う。</p>
田寺	自己紹介	<p>・「水戸市サブリーダーズ会連絡会」に所属</p> <p>水戸市主催事業の補助や、水戸市と姉妹都市である福井県敦賀市の研修にも参加している。</p>
	特徴	<p>(水戸のまちを歩く機会について)</p> <p>今の高校生は、スマートフォンを持っているので、家で過ごす学生が多いと思う。まちを歩いているのは、大学生・社会人が多いと思う。</p>

(貝島)

皆さんそれぞれ熱い思いを持っていて、水戸を愛していることが分かる自己紹介だった。また、いろいろな顔を持っていて、ライフスタイルに余裕があるので厚みがあること、水戸芸術館の25年の活動がまちに波及している面もあると思った。旧市民会館が東日本大震災により被害を受けて使えなくなり、新市民会館を建てることになったが、旧市民会館はさまざまな市民活動に使われ、需要があったと聞いている。そのため、市民活動の受け皿となることや、場所が変わり、中心市街地に立地するので、まちなかの一体感も期待されているといったことを、パネルディスカッションを通して設計者選定に応募される方に感じていただきたい。

2. 設計で盛り込んでもらいたい市民活動	
三上	<p>会議施設の面が気になる。劇場利用で新市民会館に最も訪れるのは、水戸市民だと思う。2,000人規模の会議の開催は年に数回だが、全国や海外など、外から人が来る。県内での国際会議の開催場所は主につくば国際会議場だが、新市民会館では2,000人規模の国際会議が可能となる。</p> <p>欧米のカンファレンスリゾートは、会議施設のほか、宿泊や飲食等がセットになっている。また、会議室から出ると、飲み物とキャンディが置いてある。カンファレンスリゾートには3つのL (LEARNING, LEISURE, LIVING) の考えがある。新市民会館はカンファレンスリゾートにはできないが、会議のために水戸を選んでもらえるような会議施設があるといい。3つのLのうち、LEISURE と LIVING はまちなかにも責任があると思っている。</p> <p>締め切って行った方がいい会議もあり、外の景観を観ながら行った方がいい会議もあるので、会議の趣旨によって変えられるといい。また、会議の際にパネルを置けるような壁になっているといい。</p>
高野	<p>趣味で津軽三味線をやっている。音が大きく、なかなか練習できる場所がないので、気軽に使える防音の部屋があるといい。</p> <p>また、水戸芸術館に遠方から訪れる観光客も多く、水戸芸術館は日本でも世界でも認知されている場所になってきている。京成百貨店が水戸市で唯一の百貨店であり、京成百貨店と水戸芸術館の関係は非常に大きいものと感じている。南北の動線が中心となり、そこからエリアに広まっていく考え方が一番いい。その観点から、京成百貨店と新市民会館をつなぐペDESTリアンデッキがあってもいいのかもしれない。水戸芸術館につなぐ動線としては、楽しい方がいいと思うので、例えばモール化をして、商業施設を配置したり、アートを貼りつけたり、練習風景が見えたり、日頃から楽しめる空間があればいい。</p> <p>新市民会館は水戸駅から1キロメートルと近く、3,000人の全国大会の開催場所として期待する声大きい。障害を持った方も訪れるので、バリアフリーに徹底した施設ができるといい。</p>
鈴木	<p>大ホールが2,000席、多機能ホールが500席だと、演劇を始めたい学生には敷居が高いので、練習室に客席を置け、100人くらいもしくはもっと少ない客数でも使え</p>

	<p>るようにしてほしい。天井が高く、暗転をしやすいよう、窓がない方がいい。窓がある場合は、暗転のために窓に段ボールを詰めたり黒布を貼ったりして窓をつぶさなければならない。芝居を行う立場としては壁が黒い方がいい。</p>
寺門	<p>上からスクリーンを下ろせるように天井を高くすることや、照明も部分消しができるようにするなど、映画を鑑賞できる機能を新市民会館に設けてもらいたい。また、映画に限った話ではないが、白壁であればスクリーンがなくても投影できる。</p> <p>映画の観点では音と椅子とプロジェクターが大事。高校生は外を出ないという話があったが、映画をわざわざ外に出て鑑賞するには、大きなスクリーンや爆音など、家とは違った体験ができるような場が必要である。椅子は、2時間以上座ってられる椅子であるように配慮していただけると嬉しい。</p>
笹沼	<p>活動の上で、10人くらいで打合せを行うが、中心市街地に打合せができる場所がなく、駅周辺の学校の生徒が多いにも関わらず、県庁周辺で行うことがある。そのため、打ち合わせをするだけで大変である。水戸駅近くに新市民会館ができるということで、学生が気軽に使えるような打合せ・交流スペースがほしい。</p>
田寺	<p>新市民会館に水戸市サブリーダーズ会連絡会が集まれる場があると嬉しい。</p> <p>個人的な意見だが、まちなかには落ち着ける場所が少なく、喫茶店などが減少している話もあったので、喫茶店のようなゆっくりできる場所が新市民会館にあるといい。高校が水戸駅から遠いので、水戸駅北口に訪れることは少ないが、友達と北口まで行って、途中休憩の場として新市民会館に行くのもありだと思う。</p>
三上	<p>落ち着きのある施設の役割は、できればまちなかに担ってもらいたい。新市民会館とまちなかの関係を成立させ、ケータリングやサービス、新市民会館のイベントの前後はまちなかが責任をもって担うような関係がとればばいい。</p>

(貝島)

難しい課題がいろいろ出たが、それぞれの利用ニーズをどのように両立・成立させていくか、また、三上さんからあったようにまちが担う部分と新市民会館が担う部分を設計の中でうまく整理していただけるといい。

3. 新市民会館の完成後に、やってみたいこと、期待するまちの姿	
三上	<p>市長から、「歩いてみたい、食べてみたい、あの店に行きたい」という話があったが、その延長には「住んでみたい」があると思う。そこでの日常の暮らしに対する憧れが居住者や観光客を生む。新市民会館があることでの粋な暮らしぶりが可能となることや、新市民会館に来るお客さんが満足できるようなまちなかにできればいい。</p> <p>また、新市民会館と中心市街地活性化は表裏一体である。同時に動かしていき、良いまちになればいい。</p>
高野	<p>京成百貨店ができるときに独自にヒアリングを行った際、商店会の方は「いっぱい人が来るからよくなるよ。」と言っていた。その時、私は「変わらないと思う。」</p>

	<p>と話したが、これは新市民会館ができて同じことであり、責任はまちの中の人間にもある。インターネットで買い物ができる時代なので、まちの中の人間も工夫する必要がある。</p> <p>商店会も、今までは単独の活動が多かったが、これからは自治会や水戸商工会議所、行政などと協働して行うことも大切だと思う。新市民会館の整備と共に、大通りを改造し、歩いて暮らせるようなまちが一緒にできたらいい。</p> <p>また、水戸バー・バル・パルや水戸まちなかゼミ&まちカルに県外客も参加してもらい、水戸をもう一つの目的で楽しんでもらえればいい。</p>
鈴木	<p>新市民会館で演劇や音楽や映画を行うに当たり、若手の金銭面の支えになるよう、若手を応援できるファンクラブのような支援システムができると、水戸の演劇や芸術がもっと発展していくと考えている。</p>
寺門	<p>多様な活動があるので、その方々が使いやすいことや、お互いの交流や連携がしやすくなることを望む。</p> <p>多様な活動に対するアーカイブの機能が必要だと思っている。</p>
笹沼	<p>水戸駅からバスを利用して通学している人が多いと思うが、新市民会館ができるとともにまちが活性化することで、途中下車をしてでも行きたいようなまちになればいい。</p>
田寺	<p>今は音楽をスマートフォンでダウンロードして聴くことが多いが、有名なアーティストが新市民会館でライブを行うことで、まちに出るきっかけになり、ついでに周辺の店などに行くことにつながる。</p> <p>また、新市民会館は交流の場、休憩の場所等、さまざまな使い方があると思う。完成したらいろいろなことをしてみたい。</p>

(貝島)

本日は長時間に渡ったが、地域の方の思いをお話いただき、皆さんに伝わったのではないかと思う。まちをつなぐことや歴史の話もあり、新市民会館がさまざまな年代が集まる場所になることも理解していただけたと思う。新たな地域拠点となることを豊かにイメージし、御提案いただければと思う。